



ドクター発

フットケアと仲間づくり

「糖尿病ケア」11巻3号の発刊にあたり、多くの仲間にご協力いただきました。ふだんから頼れる仲間が多くいるため、何の不安もなくプランナーとして執筆を依頼することができたことは、たいへん喜ばしくもあり自慢できることかと思えます。

読者のみなさんは、糖尿病患者さんに足のトラブルが多いことをご存じでしょう。「足の世界」はほかの診療科領域よりも多くの診療科や職種が集まり、知恵を寄せ合って治療やケアを行っていく必要がある領域の一つです。病状によっては、小さいチームから大きいチームとなって取り組んでいかねばならないことも生じます。そのときのためにも、また自分のためにも、職種や年齢、性別、立場、院内・院外を問わず、住んでいるところも関係なく、多くの仲間をつくってほしいと思います。間違えてはいけないことは、「ただ仲間の人数を増やせばいい」というわけではありません。共感できる仲間、考え方は違っても同じ方向性をもった仲間、熱い心やディープなこだわりをもった「足フェチ」「足おたく」な心の友を増やすことがさらに重要でしょう。

そんな仲間をつくるために、まず「一人でも研究会やセミナーに参加してみる」「勇気をもって研究会で一つだけ質問してみる」「隣の席の人に話しかけてみる」などしてみましょう。そういった行動がきっと次につながるはずです。そして知り合った仲間と同じ想いを共有できれば、楽しいことは一緒に笑えて、つらいことやいやなことは半減、いやそれ以上に軽減できるかもしれません。

何でも自分だけで解決する必要はありません。透析室や在宅などの社会的閉鎖空間となりやすい部署のなかで、一人ぼっちで「もんもん」「もやもや」となることなく、いろいろな仲間に来てもらえば、解決することも多いです。乗り越えられない壁はないのではないかと思います。仲間は宝物です。仲間と楽しく仕事して、問題を解決していければ、みんながHappyになれると思います。これらの経験は治療連携の際にも自然と役立ちますし、きっと患者さんにも医療スタッフ自身にも還元されるはずです。

最近ではFacebookなどのSNSも有用であり、遠方の仲間であってもつながることができます。ぜひ、みなさんもフットケアの素敵な輪を広げて、多くの足トラブルを抱えた足難民を仲間と一緒に救ってほしいと願います。

(竹内一馬)